

モデル事業名	漁村が誇る「3つの“あゝ”」のまちづくり ～青木繁《海の幸》、安房節、アジのひらき～
活動団体名	特定非営利活動法人 安房文化遺産フォーラム
ホームページ	http://bunka-isan.awa.jp/
所属/ 担当者名	事務局長 池田恵美子
連絡先	0470-22-8271 awabunka@awa.or.jp
活動地域	千葉県館山市富崎地区（布良・相浜集落）

● 活動地域の概要

当該地区は、館山市の最南端に位置し、太平洋に面しているが平地が少なく、布良（めら）と相浜（あいはま）の2集落からなる狭い地区である。沖合に2つのプレートと日本海溝があり、元禄大地震と関東大震災では甚大な津波被害を受け、隆起を繰り返した地形である。黒潮と親潮がぶつかる豊かな海域で、布良漁港と相浜漁港を有する。マグロ延縄漁発祥の地として栄えた明治41（1908）年には、クロマグロ61トンの水揚げが記録されている。しかし近年の水産業衰退に伴い、少子高齢過疎化が深刻な状況にある。



- ・面積：0.8 km² ・世帯数：527 戸 ・人口：1,140 名、うち 65 歳以上 524 名（平成 19 年 3 月現在）

- ・人口推移：明治 22 年 3,291 名 ⇒ 昭和 40 年 2,739 名 ⇒ 平成 13 年 1,348 名

- ・かつて水産業が基幹産業であったが、現在従事者は 26 軒、漁獲量は 200 トン弱となっている。商工業では、寿司店や小売店、民宿等が数軒ある程度である。

- ・全校児童数 15 名の富崎小学校では、「3つの“あゝ” = ①青木繁《海の幸》②安房節（舟唄）③アジのひらき」をテーマとした漁村のふるさと学習を実践している。

- ・地区内には医療施設がない。JR 路線からもはずれ、定期路線バスの本数も減少している。



【青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑】

明治 37（1904）年夏、日本を代表する画家青木繁が画友とともに房州布良村（現館山市富崎地区）に滞在し、後に重要文化財となる《海の幸》（石橋美術館蔵）を描いている。

29 歳で夭逝した青木繁を偲び、没後 50 年を期し館山市長をはじめ坂本繁二郎・辻永・河北倫明など画壇の著名人らが発起人となって、昭和 37（1962）年に《海の幸》記念碑が建立された。

平成 17（2005）年に、富崎小学校で開催した「《海の幸》100 年の集い」を契機として、同地区コミュニティ委員会と当 NPO 法人の呼びかけで地区住民の理解と誇りを育んできた。平成 20（2008）年秋、当法人が事務局を担い「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」が発足した。青木繁が滞在した小谷家住宅は、明治 20 年代の漁村を代表する歴史的建造物であり、平成 21（2009）年 10 月に館山市有形文化財の指定を受けた。屋根部や外壁等に緊急の修復が必要とされており、文化財保存基金を募ることを前提に、全国の美術関係者等と連携を図りながら、歴史・文化を活かした地域づくり活動をすすめている。



● 活動地域の課題

明治期にマグロ延縄船発祥の漁村として栄えていた館山市富崎地区は、基幹産業であった水産業の衰退に伴い、若者は市街地や都会へ流出し人口も激減。館山市は全国に先駆けたコミュニティ運動の先進地であるものの、当該地区は市内でもとくに少子高齢・過疎化率の高い限界集落のため、コミュニティ活動も停滞し、独居老人、老々介護、認々介護など深刻な課題が山積している。富崎幼稚園はすでに廃園となり、児童数 15 名の富崎小学校も統廃合が懸念され、さらに地域活力の低下を招く状況が待ち受けている。このような現況下においては、伝統的な漁村集落ならではの生活文化や知恵の伝承も困難であるばかりでなく、日本を代表する絵画《海の幸》が誕生した地であることへの関心や誇りも薄く、青木繁ゆかりの文化遺産が後世に保存できない危機に瀕しているといえる。

● 活動の内容

・平成21年度

活動①：青木繁《海の幸》の“あ”プロジェクト

○文化遺産保存とコミュニティファンドづくりの条件整備

1. 小谷家住宅や記念碑保存のための調査研究
2. 周辺環境の保全整備（草刈り等）
3. 文化遺産コミュニティファンドづくりの条件整備

活動②：安房節の“あ”プロジェクト

○漁村集落の生活文化の調査研究と記録・伝承

1. 舟唄「安房節」等の記録保存と調査研究
2. ITのデータベース構築
3. 広報活動

活動③：アジのひらきの“あ”プロジェクト

○コミュニティビジネス実現に向けた調査と人材育成

1. 食文化「おらがごっつお（わが家のご馳走）」の調査研究
2. コミュニティビジネスの実証
3. ガイド養成講座とまちづくり講座による人材育成

● 活動の成果

・平成21年度

○活動の状況

- ・イラストガイドマップの制作および当該地区の全戸へ無償頒布
- ・漁村の食文化「おらがごっつお」のアンケート調査と調理実習、レシピ集を編集
- ・漁村の生活文化の調査研究と記録
- ・ウォーキングガイドの実践
- ・「安房節」習得・披露
- ・記念碑周辺の草刈り
- ・小谷家住宅周辺の樹木伐採
- ・小谷家住宅保存・修復のためのアドバイザー会議
- ・元気なまちづくり講座の企画広報

○地域内での反響・効果

- ・全戸配布したイラストガイドマップがたいへん好評で喜ばれた。
- ・漁村でも魚を捌けない主婦が意外と多く、アジのひらきの調理実習が好評を得た。
- ・家庭料理のアンケート調査に協力した主婦らが漁村の食文化に誇りを持ち始めた。
- ・老人会が「安房節」講座の企画を検討し始めた。
- ・地元の漁業協同組合や宿泊施設などの理解者が増え、少しずつ連携が図れるようになった。

○周辺への波及効果

- ・館山市が、《海の幸》記念碑に解説看板を設置した。
- ・館山市文化財審議委員会が、小谷家住宅を館山市有形文化財に指定した。
- ・館山市教育委員会生涯学習課と連携を図り、小谷家住宅の修復についての検討をはじめた。
- ・千葉県観光協会が、観光人材養成講座で当該地区のウォーキングを企画、当法人がガイドを実践した。
- ・小谷家住宅の保存を目的に、全国の著名な美術関係者がNPO法人青木繁「海の幸」会を設立した。
- ・日本エコウォーク環境貢献推進機構からモデルコースとして当該地区のエコウォークが選定され、実施予定。
- ・館山市保健推進協議会が健康増進ウォークとして当該地区を選定、当法人がガイドを受託した。

● 今後の課題及び展望

○課題

- ・ 地区住民のほとんどは市民活動の経験がないため、「新たな公」という概念に対する理解が薄い。
- ・ 高齢化が進んでおり、地域活動への参加を促すには時間がかかる。
- ・ 行政のシステムに頼りがちで、地区民の自主自立によるコミュニティ機能が難しい。
- ・ 地区役員の世代交代が困難で、次世代の参画が弱い。
- ・ 館山市文化財条例では原則として「修復費用は所有者負担」と謳ってあるが、地域振興のためにも、コミュニティファンドの創設について市も積極的に協働で取り組むことが望まれる。

○展望

- ・ 2月13・14日に当該地区住民を対象に、聖徳大学生涯学習研究所・NPO法人全国生涯学習まちづくり協会の協力を得て、「元気なまちづくり市民講座」を開催し、地域活動への参加を促す。
- ・ NPO法人青木繁「海の幸」会との協働により、小谷家修復のためのコミュニティファンド（募金）を始める。
- ・ 小谷家住宅の修復事業を計画、次年度に実施予定。
- ・ 青木繁没後100年にあたる2011年に向けて、生誕地の福岡県久留米市と連携を図り、地域間交流を行う。

● 活動の様子



ツアーガイドの実践（千葉県観光人材養成講座）



制作したイラストガイドマップ



館山市教育長より小谷家文化財指定書の交付



小谷家住宅の修復アドバイザー会議



食文化「おらがごっつお」調理実習



舟唄「安房節」の踊りを練習